

## 普及センターだより

# 耕耳苑

宮古農業改良普及センター

TEL : 0193-64-2220

FAX : 0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL : 0194-22-3115

FAX : 0194-22-2806

いわてアグリベンチャーネット

<https://i-agri.net>

## 農福連携研修会を行いました

宮古地方農業振興協議会担い手部会では、農福連携の取組推進に向けた研修会を9月26日に開催しました。この研修会は、農業側、福祉側、双方の理解促進のために開催されたもので、当日は生産者及び福祉関係者を含め15名の参加がありました。

研修会では、管内の取組事例として、岩泉町の福祉施設で行われている畑わさびの調製作業と宮古市の果樹農家における取組を見学しました。福祉施設では、作業工程ごとに施設利用者を配置し、効率的な作業に努めていました。施設職員によると、利用者によって作業の得意・不得意があるため、よく見てあげることが大事とのことでした。また、果樹農家の方は、「農福連携に予想以上の効果を感じており、貴重な労働力として今後も取組を継続していきたい」とおっしゃっていました。

参加者からは様々な質問が出されたほか、「初めて、実際に作業している様子を見学することができて良かった」などの感想があり、理解を深める良い機会となったようです。今後のさらなる取組推進に向けて期待されるところです。



〔畑わさび調製作業見学〕



〔果樹における取組見学〕

【担当：砂子田】

## 自慢のわさびが勢揃い～第29回岩手県わさび品評会～

第29回岩手県わさび品評会が、去る9月13日と14日、岩手県わさび生産者協議会の主催により、宮古市川内の道の駅やまびこ館やまびこフェスタ特設会場で開催されました。

品評会には、県内各地から根わさびの部14点、畑わさびの部27点が出品され、管内特産の「畑わさびの部」では、栽培上課題となっている病虫害の被害程度に重きを置きつつ、草姿・草勢と株重に優れるものが選定された結果、良品揃いの中で特にもすべての項目で高得点を獲得した岩泉町の林勝美氏が最優秀賞を初めて受賞しました。また、優秀賞・奨励賞はベテラン生産者が受賞し、技術の高さを示す形となりました。

受賞者の皆さん、おめでとうございます！出品者の皆さんは来年も高品質のわさびを生産できるよう、今年の栽培の振り返りを行って頑張りましょう！

【担当：熊谷】

# JA野菜生産部会ブロッコリー専門部におけるグローバルGAPへの取組について

JA 野菜生産部会ブロッコリー専門部では、農産物の生産工程でのリスク（残留農薬、微生物汚染、農作業事故など）を評価し、農業生産に伴う危険をできるだけ少なくすることにより事故の発生を防ぎ、適切な農業生産を実践する『GAP（農業生産工程管理）』の取組を開始しています。

専門部内の有志9名により、研修会や農場点検等を行い、各農場のリスク評価に基づく改善を実施し「グローバルGAPの認証取得」に向け取り組んでいます。

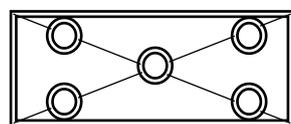
認証取得に向けて取り組む中で、調整場の作業動線の見直しによる効率的な配置や、農薬保管庫の整理、棚卸し台帳の作成により無駄な農薬購入の把握が進みました。

継続的な取組により、「消費者からの信頼の確保」や「農作業中の事故防止」、「低コスト化による経営改善」等に繋がることを期待しています。

【担当：佐々木（満）】

## 土壌診断をしましょう！

作物の収穫がひと段落する秋です。土壌診断により土壌状態を正確に把握し、次年度の適正施肥に生かしましょう。



### 1 土の取り方

1つの圃場につき、5ヶ所以上から採取します（図参照）。

1ヶ所あたり、移植ごてで1すくいが目安です（表面1cm程度を除き、深さ15cmの表層から深層まで）。

### 2 土の調製

(1) 風通しの良い日陰にうすく広げて土を良く乾かします（参考：左写真）。

(2) 土が固まっている場合は、砕き、2mmのふるいを通します。

(3) ビニール袋に100g程度の土を入れ、下記窓口を持参してください。

### 3 受付窓口及び問合せ先

宮古市・山田町	JA 新いわて宮古営農経済センター米穀園芸課	TEL 0193-69-3220
岩泉町・田野畑村	JA 新いわて宮古営農経済センター田野畑集荷場	TEL 0194-34-2033
	JA 新いわて宮古営農経済センター岩泉地区担当課	TEL 0194-22-2311

※ 分析料金は品目等で異なる場合があるため、上記の窓口にご確認ください。

※ 農協以外の分析機関については普及センターにお問い合わせください。

※ 分析機関により、必要な土壌の量や調製方法が上記と異なる場合があります。

【担当：上出】

## 秋冬期の施設野菜における農薬適正使用について

秋冬期に栽培される施設栽培葉菜類において、農薬残留基準の超過事案が発生しておりますので、下記事項に留意して農薬適正使用に努めましょう。

- ・ 使用の際は、農薬ラベルを必ず確認。農薬使用後は使用記録を残し、家族で共有。
- ・ 農薬散布後は、散布機具をしっかりと洗浄。☆施設栽培葉菜類では特に注意！☆
- ・ 農薬を使用する際は、マスク、合羽、手袋等で身を守る。
- ・ 農薬は鍵のかかる保管庫に保管するなど、適切に管理。

**注意：**被覆資材にかかって固着した薬剤が、被覆資材に発生した結露等に溶解し、作物体に付着する恐れがあります。散布の際はこの点にも注意してください。

【担当：佐々木（満）】